

# ニュージャージー日本人学校における落語の実践

前ニュージャージー日本人学校教諭

和歌山大学教育学部附属小学校教諭 矢出 大介

キーワード：在外教育施設、ニュージャージー、総合的な学習の時間、落語、表現力

赴任校の概要（2023年10月10日現在）

学校名・日本語：ニュージャージー日本人学校

学校名・現地表記：The New Jersey Japanese School

URL：<https://newjerseyjapaneseschool.org/>

## 1. はじめに

縁があって教諭として在外教育施設で教鞭をとる機会を頂いた。前回、私はオランダロッテルダム日本人学校で勤務させていただき、今回、アメリカニュージャージー日本人学校で勤務させていただくことになった。どちらも、小規模という共通点があった。前回の派遣の経験を活かし、小規模校の良さを活かした実践を紹介したい。

## 2. アメリカにある日本人学校の現実

### (1) 保護者の要望と文部科学省の要望

#### ① 保護者の要望

ニュージャージー日本人学校の多くの関係者から、「子どもの表現力を高めて頂きたい。宜しくお願いします」と激励の言葉を頂いた。それは日本と同等の教育を行うという在外教育施設の理念を超える期待だった。H20年中央教育審議会答申では、「言語は知的活動（論理や思考）の基盤であるとともに、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあり、豊かな心を育む上でも、言語に関する能力を高めていくことが重要であるとしている。また、小学校指導要領H29年告示には、各学校においては、教科等の目標や内容を見通し、特に学習の基盤となる資質・能力〔言語能力、情報活用能力（情報モラルは含む。以下は同じ）、問題発見・解決能力等〕や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためには、教科横断的な学習を充実することや、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通して行うことが求められるとしている。

#### ② 学習指導要領の総合的な学習の時間の位置づけ

小学校指導要領H29年告示、第5章の総合的な学習の時間において、(5) 目標の実現にふさわしい探求課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心に基づく課題などを踏まえ設定することとしている。

(6) のイでは、思考力、判断力、表現力等については、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などの探究的な学習の過程において活用できるものとして身に付けられるようにすることとしている。

### (2) 表現力の育成

#### ① 少人数を活かした自己表現の場

少人数であることは、多様な考えに触れることができないことなど、マイナスなイメージを持たれがちで

ある。そのマイナスイメージをプラスにする必要があると考えた。少人数クラスは、単純に発表のチャンスが増える。そのことを活かした授業展開を日々実践していった。

また、授業で発表するだけでなく、劇や落語などクラス全員・グループでの自己表現の機会も大人数よりも容易にできる。4月から児童・保護者に向けて、今年1年間は多くの自己表現の場を設定し、自分を表現することが好きになることを目標とすると伝えた。

## ② カリキュラムデザイン

表現をするためには、「伝えたい内容」が必要となる。その伝えたい内容が本気であればあるほど子どもの意欲が高まる。また、どうすればもっと伝わるのかと考えるようになる。伝えたい内容を吟味するようになる。

このような児童を育成するためには教科横断での学びを考えたカリキュラムデザインが必要になってくる。

### 3. ニュージャージー日本人学校における落語の実践

上記のことを踏まえ、ニュージャージー日本人学校初等部3年生で落語の実践をした。

単元名：落語で自分もみんなも笑顔

対象：ニュージャージー日本人学校 3年生5名

※落語の演目：じゃがんそう・まんじゅうこわい・動物園・眼鏡屋どろぼう

なぜ総合的な学習の時間に落語を学ぶことにしたのか

#### (1) 子どもへの願い

##### ① コロナで元気がない

- ・クラスだけでなく学校みんなを笑顔にしたい。
- ・自分たちががんばることで周りの人を笑顔にしたい。
- ・自己肯定感・自己効力感・自己使命感となしてほしい。

##### ② 恥ずかしがる

- ・自己表現を楽しんでほしい。

##### ③ 少人数

- ・発表するチャンスがたくさんある。

##### ④ アメリカ在住

- ・日本文化を知ること、アイデンティティをもってほしい。



落語家と一緒に寄席を行った

#### (2) 目標

日本の伝統文化である落語を体験する活動を通して、落語のおもしろさに気付き、落語独特の豊かな表現力を養うとともに、自ら進んで日本の伝統文化に親しみ、自己の生活を豊かにしていこうとする態度を育てる。

#### (3) UDL (Universal Design for Learning) の視点での支援

##### ① 児童の活動

iPad・ロイロノート（ロイロノート・スクール）を活用して自分の落語を繰り返し視聴する。

児童相互の話し合いの場を意図的に設定する。

##### ② 教師の支援

児童の考えや意見を整理しながら板書し、ロイロノートで配信する。

→児童の思考を促進する。

#### (4) 探究的な学習過程

### ①課題の設定

探究的な学習を通して課題を設定し、課題意識をもつ。

「どうしたらみんなに笑ってもらえるのだろうか」

### ②情報の収集

落語に必要な情報を取り出したり収集したりしている。

### ③整理・分析

実際に寄席をした感想を中心に、収集した情報を整理したり、分析したりして思考する。

### ④まとめ・表現

これまでの練習や寄席をして気付きや発見、自分の考えをまとめ、判断し、表現する。

※1学期から授業参観・秋の学習発表会・落語家との寄席（それまでもクラス内で発表）を積み重ねた。国語や道徳などで落語の学びにつながる学習をしてきた。

### (5) 成果

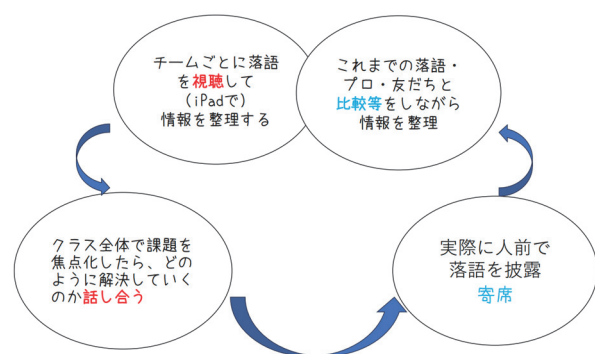
- ・人前で話すことが楽しい。
- ・自己表現することを楽しいと思えた。
- ・お互いの良さを知れた。
- ・落語家の魅力を知れた。
- ・表現力が身に付いた
- ・全体を通して自己の生活を豊かにしていこうと思えた。

※人前（カメラの）前で落語を披露し、人に喜んでもらい合うと考え、1つではなく複数の噺を覚えて披露できた。

☆落語を楽しみで学校に来る！自己表現が楽しくて学校に来る。

### (6) 子どもの作文から

「先生のおかげで、発表をする時間がふえ、だんだんと自分の思うとおりに考えを言えるようになりました。」「落語をやり始めたときは、はずかしかったけど、少しずつはずかしくなくなってきました。自分ががんばって落語をおぼえてはなしたら、おうちの人が笑ってよろこんでくれました。」「今年たくさん発表したので、人前で話すことがすきになりました。」「だからテレビの人や落語家さんの前で落語をすることも楽しめました。」



探究的な学習過程